



## できることを奪わない

～デイサービスセンター中原の「グループホームケア」～

デイサービスセンター中原のケアの基本は、認知症の方々が互いに助け合いながら生活する「グループホームケア」です。人の助けになるようなやりがいある作業を行ったり、周りに感謝されたりすることで、ご自分の居場所を見つけられる、そんなデイサービスセンターでありたいと思っています。ご利用者様のできること、やりたいことの代表である“水回り”の家事を例に、グループホームケアをご紹介します。

### 見事な連携プレー

12時30分。大方のご利用者様が昼食を終えてくつろいでいる頃、ご利用者K様から「食器を洗うから、いつでも言って」とのお申出が。K様、N様、S様の3名がいらっしゃる日は、水回りの家事を皆さんが一手に引き受けて下さいます。食器類を洗うのがK様、ゆすぐのがN様、拭くのがS様と自然と役割分担が出来上がっていて、見事な連携プレーです。

しかも、食器や鍋の片付け、果ては流しのゴミ処理まで行って下さる完璧さ。感謝の言葉をお伝えすると、「慣れているから何でもない」「さんざんやってきたんだから」と主婦の顔をのぞかせていました。



### 居場所を確保することが大切

お三方のうちのS様は、10月から利用を開始したばかりです。ご利用初日はご自分のバッグを抱え込み、不安げな様子も見

えていましたが、2日目に食器拭きを自らかって出て下さり、お願いするうちに、ご自身の居場所ができた安心感からか、今では大好きな美空ひばりの歌を口ずさんだり、塗り絵などを楽しむ余裕も出てきました。

10月からご利用のS様。居場所づくりには、役割があるだけでなく、周りから感謝されたり、優しくされたりする環境も大切です。



### 陰で支える職員

一方、職員はご利用者様の作業がスムーズに進められるように、準備をしておきます。同じ食器を積み重ねて予洗い、熱湯につけて汚れをとれやすくしたり、食器を洗った後に置くお盆やふきんをすぐ分かる場所に用意します。また、包丁は危険なので先に洗ってしまっておきます。

今は手際よく進めていますが、当初は食器をしまう場所が分からなくて、その都度職員に聞いたりしていました。しかし、回数を重ねていくうちに、場所を覚えられるようになりました。ただ、どうしても忘れてしまう箇所もあるため、写真で分かりやすく表示してみようと思っています。



### 誰もが人の役に立ちたい

介護職の慢性的な不足により、合理化を図るため弁当の配食サービスを提供する方法もあります。しかし、食事はただ食べるためのものではなく、献立選びから始まり、後片付けまでの工程があり、その全てにご利用者様が参加されることが、グループホームケアの本質だと思います。家事をしたいのは、お三方だけではありません。誰もが何かして役に立ちたいという思いを持っています。食器洗いができなくても、おしぼりを置くことなら、味見ならできるといったように、ご利用者様のできること、やりたいことを活かすように尊重したいと思っています。

麻痺があり、片手が不自由な方には、拭きやすいように、凹凸のある茶碗を準備しておきます。とても丁寧に拭いて下さいます。



# 会話は共感力



## グループホーム中原

グループホーム中原では、30代からシニア世代まで幅広い層の職員が働いています。体力では若い人にかないませんが、認知症の方々が生活する小規模のグループホームでは、それよりも相手の気持ちを考えながら共感できる姿勢の方が大事な場合もあります。その意味では、若い世代より歳を重ねた職員の方が、趣味や幼い頃の思い出、健康の悩みなど様々な話題で、ご入居者様の想いに共感できると言えます。

### 三種の神器で盛り上がる！

「氷屋さんが御用聞きに来て、“1貫目(かんめ)お願い”と言うと氷屋さんが家の冷蔵庫に入れてくれたよね」「そうそう！」—これはご入居者様と職員のある日の会話です。ご入居者様は全員女性なので、昭和30年代頃、三種の神器といわれた冷蔵庫や白黒テレビ、洗濯機などの話はよく盛り上がります。

冷蔵庫の話には続きがあって、当時は冷凍機能がないため、「氷が溶けて下に水がたまって困った」とか「受け皿の水を捨てるのが子供の役目だった」などと話が際限なく広がります。ご入居者様の生活歴を理解した上で、話題を提示できるのも、会話の幅を広げられるのも、年を重ねて人生経験を経た職員だからこそです。

日常の介護は、ご入居者様との何気ない会話の積み重ねから信頼関係が築かれていくので、共通の話題があることは大きなメリットになります。

### 思い出話は精神を安定させる

「回想法」は、昔の思い出を話すことで精神を安定させ、認知機能の改善も期待できるという心理療法です。特に、認知症の方は最近の出来事は忘れやすくなっている、昔の記憶はしっかりと残っていることが多い、回想法はこの認知症の特性を活用した療法でもあります。昔の話をされる時の表情は皆生き生きとしています。過去のことを思い出すうちに、懐かしさが蘇り、穏やかな気持ちになるのでしょうか。



### ご家族様には安心を

一方で、ご家族様に対する共感力も欠かせません。家族の介護を経験した職員も多く、認知症の方を身内が介護する大変さは痛いほど分かります。面会に来られるご家族様には、ホームで明るく過ごしているご本人の様子を見て、安心していただきたいと思います。

水分・運動などの自立支援の取り組み、プラス共感力でご入居者様の健やかな生活を支援して参ります。



## 担当医変更のお知らせ

グループホーム中原のご入居者様の健康をサポートしていただいている「悠翔会在宅クリニック川崎」の担当医が10月より**中村 高浩**先生に変わりました。

悠翔会の先生方はご入居者様の声を真摯に聞いて迅速に対応して下さり、薬の量を適切に減らしていただくなど、心強い存在です。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



## フェイスブックもご覧ください！

三喜会のグループホーム・デイサービスセンターの日頃の様子を紹介。あわせてご覧ください。



医療法人社団 三喜会  
グループホーム・デイサービスセンター中原

〒211-0041 川崎市中原区下小田中3-2-25

TEL. 044(741)1800 <グループホーム>

044(741)1700 <デイサービスセンター>